

資料④ 瑞穂市コミュニティバスの運行について

瑞穂市コミュニティバス「みずほバス」の概要

～「ほづみバス」から「みずほバス」へ～

◇運行の目的

- ① 交通需要に対応した適正な交通機関の分担を図り、交通空白地帯の解消、短距離交通システムの整備等をし、既存バス路線では十分な対応ができない需要にきめ細かく対応します。
- ② 高齢者や子供等の移動を支援することにより、その社会参加を通じた外出意欲を促すとともに、公共施設、買い物等へのアクセスを確保します。
- ③ 公共交通サービスを充実・強化することにより、自家用自動車依存を抑制して環境負荷を軽減し、道路交通混雑の緩和を図ります。

◇導入の歴史

- 平成11年10月1日 当時の穂積町で本田線、牛牧線の2路線で「ほづみバス」として運行を開始。
- 平成15年 5月1日 穂積町と巢南町が合併。
- 平成16年 5月1日 「みずほバス」と名称変更し、旧巢南地域に路線を拡大。現在の本田馬場線、牛牧十七条線および鷺田船木線の3路線とし、運行を開始。
- 平成17年 4月1日 みずほターミナル新設。
- 平成22年 4月1日 牛牧十七条線がプラント6まで延伸して運行開始
- 平成23年10月1日 路線バスである穂積リオワールド線、大野穂積線の発車がみずほターミナルから穂積駅に変更。
- 平成24年 4月1日 路線バスである穂積リオワールド線を瑞穂北部線と名称を変更し、みずほバスの路線として運行開始。みずほバスは4路線体制となる。

◇委託先

瑞穂市が岐阜乗合自動車(株) (通称：岐阜バス) に委託しています。

◇乗車賃等

1回100円(未就学児は無料)でどこまでも乗ることが可能。そのため、別名ワンコインバスとも呼ばれています。

※定期券・回数券等はありません。

◇バスの特徴

旧穂積町の特産品でもあるれんげの花の色をベースとし、車体の図柄は、豊かな自然をモチーフに緑と花をデザイン化したものです。

バスは日野自動車のリエッセ（小型バス）を3台で、座席16席と22の立席の定員38人乗り、座席の一つは折りたたみ式で車椅子を固定できるようになっています。

年末年始（12月29日～翌年1月3日）以外は毎日運行します。ただし、平日ダイヤ、休日（土・日・祝日）ダイヤがあります。

JR穂積駅を基点とし、公共施設、病院、スーパー等が利用できるように幹線道路を中心に市内全域を安全に走行できる道路を路線として運行しています。停留所は、概ね半径300mの円が交わらないようにバス停間隔として600mを設けており、公安委員会とも協議のうえ、交差点から50m離すとともに、カーブ等の危険箇所を回避して設置されています。

◇主なバス利用者

朝夕は、通勤・通学のためにJR穂積駅に向かわれる方が多く利用されています。その他の時間帯は、主にスーパーでの買い物や病院への通院、公共施設でのイベント参加等で多く利用されています。

◇運行ルート

①本田・馬場線

- (1) 運行所要時間 30分
- (2) 運行距離 12.2km
- (3) 停留所数 25ヶ所
- (4) 1日の運行便数 左回り5本（土日祝日 4本）
右回り5本（土日祝日も同じ）

②牛牧・十七条線

- (1) 運行所要時間 50分
- (2) 運行距離 19.8km
- (3) 停留所数 31ヶ所
- (4) 1日の運行便数 左回り5本（土日祝日 4本）
右回り4本（土日祝日も同じ）

③鷺田・船木線

- (1) 運行所要時間 38分
(2) 運行距離 14.0km
(3) 停留所数 18ヶ所
(4) 1日の運行便数 JR 穂積駅行き 5本 (土日祝日 4本)
重里行き 5本 (土日祝日 4本)

④瑞穂・北部線

- (1) 運行所要時間 46分
(2) 運行距離 17.9km
(3) 停留所数 20ヶ所
(4) 1日の運行便数 七崎経由 3本 (土日祝日も同じ)
森経由 3本 (土日祝日も同じ)